

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|--|--|------|------|----|---|
| 科目 | 美容基礎理論 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 48 | 授業回数 | 24 | |
| 担当教員 | 工藤公康・北川道子・鎌田絵里 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 動物を扱う上で必要な基礎知識と、トリミングで使用する用語や道具を学ぶ。また、グルーミングが与える動物への効果を学び様々な犬種や状態に応じたグルーミング技術を得るとともに皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める。 | | | | | | | |
| 使用教材 | グルーミングマニュアル・トリマー問題集・猫のグルーマー教本・配布資料 | | | | | | | |
| 評価基準 | 授業態度 技術習得度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 犬という動物に関する基礎知識 | | よい犬の定義ならびに犬の分類と馴化の歴史について学習する。 | | | | | |
| 2 | 各種道具の説明 | | 道具の名称や使い方を学習する。 | | | | | |
| 3 | トリミングをする上での心構えについて | | 実習に入る前にトリミングの大切さなどを学ぶことで心の準備をする。 | | | | | |
| 4 | ハサミの基礎知識① | | ハサミの歴史やハサミの各部名称、素材、仕組みと性質について。 | | | | | |
| 5 | ハサミの基礎知識② | | ハサミの種類や選び方、保管方法について。 | | | | | |
| 6 | 実技に入る前に知っておくべきこと | | 実技をする上での注意や作業手順を学ぶ。 | | | | | |
| 7 | シャンプー&コンディショナーの基礎知識① | | 被毛の構造や性質、シャンプーとリンスの特性について学習する。 | | | | | |
| 8 | シャンプー&コンディショナーの基礎知識② | | 被毛の構造や性質、シャンプーとリンスの特性について学習する。 | | | | | |
| 9 | トリマー試験対策① | | トリマー資格試験向けに、指定問題集を基にトリミングの用語の意味や目的を学習する。 | | | | | |
| 10 | トリマー試験対策② | | プードルについてサイズやペットクリップ・スタイルのカットバラエティなどを学習する。 | | | | | |
| 11 | 猫学：歴史と発生スタイルについて | | 猫の歴史や3つに分類される猫種がどのようにして現在のスタイルになったかなどを学ぶ。 | | | | | |
| 12 | 猫学：体型について | | 頭部の形や耳、テールの長さなど、体型を学ぶと共に品種についても学習する。 | | | | | |
| 13 | トリマー試験対策③ | | テリアについてトリミング技法やブラッキングの目的などを学習する。 | | | | | |
| 14 | トリマー試験対策④ | | シュナウザーやアメリカン・コッカースパニエルなどのカット表現などを学習する。 | | | | | |
| 15 | トリマー試験対策⑤ | | 犬体用語や被毛、毛色などについて学習する。 | | | | | |
| 16 | 猫学：カラーパターン | | 猫種ごとの公認カラーパターンを学習するが、それと同時に密接しているアイカラーについても学習する。 | | | | | |
| 17 | 猫学：体の構造と機能、食事と栄養 | | 猫の体の各名称や構造・働き、または食性、必要な栄養を学習する。 | | | | | |

| | | |
|----|------------|--|
| 18 | ICC試験対策 | ICC C級試験に向けた授業。復習や模擬テストを行い対策を行う。 |
| 19 | トリマー試験対策⑥ | ショー・クリップ、ペット・クリップの各部名称や原産国などについて学習する。 |
| 20 | トリマー試験対策⑦ | ビション・フリーゼの体の対比についてやトップ・ライン、バック・ラインなどについて学習する。 |
| 21 | トリマー試験対策⑧ | トリマー資格試験の学科試験に向けて今まで学習してきた内容の復習、模擬テストなどを行い対策を行う。 |
| 22 | トリマー試験対策⑨ | トリマー資格試験の学科試験に向けて今まで学習してきた内容の復習、模擬テストなどを行い対策を行う。 |
| 23 | トリマー試験について | トリマー資格試験時における受験者のマナーや試験中の注意、心構えについて |
| 24 | 進級後の実習について | トリミングする際のオーダーの見方、使用する道具などについて |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|--|--|------|------|----|---|
| 科目 | 美容基礎理論 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 工藤公康・北川道子・鎌田絵里 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 動物を扱う上で必要な基礎知識と、トリミングで使用する用語や道具を学ぶ。また、グルーミングにおいて状態の観察・的確な手技を取り負担のないグルーミングが行えるよう理解する。 | | | | | | | |
| 使用教材 | グルーミングマニュアル・トリマー問題集・猫のグルーマー教本・配布資料 | | | | | | | |
| 評価基準 | 授業態度 技術習得度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | トリマー試験対策① | | トリミングで使用する用語の定義目的を学習する。 | | | | | |
| 2 | トリマー試験対策② | | プードルについて、毛質やマズルの対比、背線の理想などを学習する。 | | | | | |
| 3 | トリマー試験対策③ | | テリアについてのトリミング方法や被毛などについて学習する。 | | | | | |
| 4 | トリマー試験対策④ | | テリアについてのトリミング方法や被毛などについて学習する。 | | | | | |
| 5 | 猫学：スタンダード① | | 猫種別にタイプやコート、外貌、アイカラーなどを深く理解する。 | | | | | |
| 6 | 猫学：スタンダード② | | 猫種別にタイプやコート、外貌、アイカラーなどを深く理解する。 | | | | | |
| 7 | シャンプー&コンディショナーの基礎知識① | | 被毛の構造や性質、シャンプーとリンスの特性について学習する。 | | | | | |
| 8 | シャンプー&コンディショナーの基礎知識② | | 被毛の構造や性質、シャンプーとリンスの特性について学習する。 | | | | | |
| 9 | 猫学：繁殖 | | 犬とは大きく違う発情から発情サイクル、計画繁殖の方法について深く理解する。 | | | | | |
| 10 | 猫学：適正な飼育方法 | | 成猫や仔猫を飼育する上で必要な知識や猫の食性の理解、住環境の整え方などを深く理解する。 | | | | | |
| 11 | トリマー試験対策⑤ | | 犬体用語について被毛と毛色の名称などを学習する。 | | | | | |
| 12 | トリマー試験対策⑥ | | ペットクリップ、ショークリップの各部名称についてや犬種別原産国、トリミング技法などを学習する。 | | | | | |
| 13 | 猫学：グルーミングの必要性 | | 猫の皮膚や被毛についての知識を習得し、手入れする上で留意すべき点等を理解する。 | | | | | |
| 14 | I C C 試験対策 | | I C C B級試験に向けた授業。復習や模擬テストを行い対策を行う。 | | | | | |
| 15 | トリマー試験対策⑦ | | トリマー資格試験の学科試験に向けて今まで学習してきた内容の復習、模擬テストなどを行い対策を行う。 | | | | | |
| 16 | トリマー試験対策⑧ | | トリマー資格試験の学科試験に向けて今まで学習してきた内容の復習、模擬テストなどを行い対策を行う。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|--|--|------|------|----|---|
| 科目 | 犬種別講習 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 48 | 授業回数 | 24 | |
| 担当教員 | 北川道子・鎌田絵里・古山馨・濱本大気 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | トリミングをする上で重要な犬の扱い方やグルーミングの方法、犬種によるカットの違いを学ぶことで、各犬種にあった基本的なトリミング方法や形、ハサミの入れ方などを学習し理解する。 | | | | | | | |
| 使用教材 | グルーミングマニュアル | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 正しい犬の扱い方について | | 正しい犬の抱き方やトリミングに必要な立たせ方、危険な犬の扱い方などを学習する。 | | | | | |
| 2 | グルーミングの仕方① | | ブラッシングの仕方やコームの入れ方、耳掃除の仕方、シャンプー・ブローの仕方など、解説を聞きVTRを見ながら学習する。 | | | | | |
| 3 | グルーミングの仕方② | | ブラッシングの仕方やコームの入れ方、耳掃除の仕方、シャンプー・ブローの仕方など、解説を聞きVTRを見ながら学習する。 | | | | | |
| 4 | グルーミングの仕方③ | | ブラッシングの仕方やコームの入れ方、耳掃除の仕方、シャンプー・ブローの仕方など、解説を聞きVTRを見ながら学習する。 | | | | | |
| 5 | シュナウザー① | | シュナウザーのトリミング方法、使う道具などを次回行われる実演に向けて学習する。 | | | | | |
| 6 | プードル① (ケネル&ラムクリップ) | | プードルのトリミング方法、使う道具などを次回行われる実演に向けて学習する。 | | | | | |
| 7 | プードル② (ケネル&ラムクリップ) | | プードルのトリミング方法、使う道具などを次回行われる実演に向けて学習する。 | | | | | |
| 8 | アメリカン・コッカー・スパニエル① | | アメリカン・コッカー・スパニエルのトリミング方法、使う道具などを次回行われる実演に向けて学習する。 | | | | | |
| 9 | アメリカン・コッカー・スパニエル② | | アメリカン・コッカー・スパニエルのトリミング方法、使う道具などを次回行われる実演に向けて学習する。 | | | | | |
| 10 | シー・ズー① | | シー・ズーのトリミング方法、使う道具などを次回行われる実演に向けて学習する。 | | | | | |
| 11 | シー・ズー② | | 実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する。 | | | | | |
| 12 | シュナウザー② | | シュナウザーの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める。 | | | | | |
| 13 | シュナウザー③ | | シュナウザーの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める。 | | | | | |
| 14 | プードル③ (ケネル&ラムクリップ) | | プードルの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める。 | | | | | |
| 15 | プードル④ (ケネル&ラムクリップ) | | プードルの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める。 | | | | | |
| 16 | ポメラニアン① | | 実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する。 | | | | | |
| 17 | ポメラニアン② | | 実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する。 | | | | | |

| | | |
|----|--------------------|---|
| 18 | ヨークシャー・テリア① | 実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する。 |
| 19 | ヨークシャー・テリア② | 実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する。 |
| 20 | ビション・フリーゼ① | 実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する。 |
| 21 | ビション・フリーゼ② | 実際にカットしている所を見ることで、ハサミの入れ方やカットの方法やスタイルを学び理解する。 |
| 22 | アメリカン・コッカー・スパニエル③ | アメリカン・コッカー・スパニエルの犬種別講義で学習したことを、実際にカットしている所を見ながら、更に理解を深める。 |
| 23 | プードル⑤ (ケネル&ラムクリップ) | プードルの犬種別講義をベースに実際にカットしている所を見ながら更に理解を深める。 |
| 24 | プードル⑥ (ケネル&ラムクリップ) | プードルの犬種別講義をベースに実際にカットしている所を見ながら更に理解を深める。 |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|----|---|
| 科目 | 犬種別講習 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 鈴木美穂 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 担当教員 | 工藤公康・北川道子・鎌田絵里・古山馨・濱本大気 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 全ての犬種には、繁殖指針とするための『犬種標準』が定められている。犬種ごとの原産地や用途、歴史を知り、理想とする形態を理解できるようにする。トリミング、飼養相談などの際にも、スタンダードの知識は必要不可欠であり、それらを正しく理解し、就職後も有効な飼養指導ができることを目指す。また、ペットらしい可愛いカットをするために、犬種別講義と実演でカットの方法と形をもう一度学習する事で、更に理解を深め、最終的にトリマーB級ライセンス（実技試験）合格を目指す。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 全犬種標準書・グルーミングマニュアル | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | 1グループ | | グループの構成、1グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 2 | 2グループ | | グループの構成、2グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 3 | 3グループ | | グループの構成、3グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 4 | 4グループ | | グループの構成、4グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 5 | 5グループ | | グループの構成、5グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 6 | 6グループ | | グループの構成、6グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 7 | 7グループ | | グループの構成、7グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 8 | 8グループ | | グループの構成、8グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 9 | 9グループ① | | グループの構成、9グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 10 | 9グループ② | | グループの構成、9グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 11 | 10グループ | | グループの構成、10グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 12 | ドッグショーのルールを学ぶ | | ドッグショーのルールを学び、どのようにして順位が決定するのかを学ぶ。 | | | | | |
| 13 | プードル（ケネル&ラムクリップ） | | ケネル&ラムクリップの形をより理解するために実演に向けて学習する。 | | | | | |
| 14 | プードル（ベアカット） | | ベアカットのカットをしている所を目の前で見ることで、ハサミの入れ方やカットの仕方を学び理解する。 | | | | | |
| 15 | プードル（ケネル&ラムクリップ） | | プードルの犬種別講義をベースに実際にカットしている所を見ながら更に理解を深め、トリマーB級（実技）試験合格を目指す。 | | | | | |
| 16 | アメリカン・コッカー・スパニエル | | アメリカン・コッカー・スパニエルのカットをしている所を目の前で見ることで、ハサミの入れ方やカットの仕方を学び理解する。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|----|---|
| 科目 | 創造学 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 工藤公康・鎌田絵里 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 演習 | | |
| 学習目標 | 観察力を養い、全体のバランスを考えながら物を見ることの大事さを学ぶ。また、想像力や発想力の向上を目指す。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 裁縫道具一式・スケッチブック・粘土 他 | | | | | | | |
| 評価基準 | 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | リボン作り① | | トリミングのサービスとして犬の耳に付けるリボン。デザインを考案し、オリジナリティを豊かに表現する。 | | | | | |
| 2 | リボン作り② | | リボン作り①で考えたデザインを基に針と糸を使い一からリボンを作成する。 | | | | | |
| 3 | スケッチ① | | 犬の写真を見て、細部にわたりデッサンする。個体のバランスなどを考え、犬体を学び、観察力や集中力を養う。 | | | | | |
| 4 | スケッチ② | | 犬の写真を見て、細部にわたりデッサンする。個体のバランスなどを考え、犬体を学び、観察力や集中力を養う。 | | | | | |
| 5 | 造形① | | 粘土を使って犬体を作り上げることにより、いろんな角度から物を見る大切さを学習。立体的に犬体を考える力を養う。 | | | | | |
| 6 | 造形② | | 粘土を使って犬体を作り上げることにより、いろんな角度から物を見る大切さを学習。立体的に犬体を考える力を養う。 | | | | | |
| 7 | 造形③ | | 粘土を使って犬体を作り上げることにより、いろんな角度から物を見る大切さを学習。立体的に犬体を考える力を養う。 | | | | | |
| 8 | 造形④ | | 粘土を使って犬体を作り上げることにより、いろんな角度から物を見る大切さを学習。立体的に犬体を考える力を養う。 | | | | | |
| 9 | 服飾① | | 服の構造を知る。裁断の仕方、縫い方の説明、縫製の手順を学習 | | | | | |
| 10 | 服飾② | | 服の構造を知る。裁断の仕方、縫い方の説明、縫製の手順を学習 | | | | | |
| 11 | 服飾③ | | 布地から選び、型紙を作成。犬の服を手縫いにより作成。 | | | | | |
| 12 | 服飾④ | | 布地から選び、型紙を作成。犬の服を手縫いにより作成。 | | | | | |
| 13 | 服飾⑤ | | 4講義にわたり、裁断したそれぞれのパーツの布を縫い合わせ、服を完成させる。トリミングにも通じる一つ一つの積み重ねで作品が出来上がる達成感や集中力も必要不可欠ということを学ぶ。 | | | | | |
| 14 | 服飾⑥ | | 4講義にわたり、裁断したそれぞれのパーツの布を縫い合わせ、服を完成させる。トリミングにも通じる一つ一つの積み重ねで作品が出来上がる達成感や集中力も必要不可欠ということを学ぶ。 | | | | | |
| 15 | 服飾⑦ | | 4講義にわたり、裁断したそれぞれのパーツの布を縫い合わせ、服を完成させる。トリミングにも通じる一つ一つの積み重ねで作品が出来上がる達成感や集中力も必要不可欠ということを学ぶ。 | | | | | |
| 16 | 服飾⑧ | | 4講義にわたり、裁断したそれぞれのパーツの布を縫い合わせ、服を完成させる。トリミングにも通じる一つ一つの積み重ねで作品が出来上がる達成感や集中力も必要不可欠ということを学ぶ。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|---|---|
| 科目 | 創造学 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 16 | 授業回数 | 8 | |
| 担当教員 | 工藤公康・鎌田絵里 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 演習 | | |
| 学習目標 | 発想力や想像力を豊かにし、物を立体的に考える視点を養うとともに、トリミングにも通ずるであろう物を作り上げるための集中力を身につける。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 裁縫道具一式・スケッチブック・粘土 他 | | | | | | | |
| 評価基準 | 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | スケッチ① | | 1年次のスケッチをふまえ、犬の写真をデッサン。全体のバランスを見る力や観察力などの向上がみられるのか確認する。 | | | | | |
| 2 | スケッチ② | | 1年次のスケッチをふまえ、犬の写真をデッサン。全体のバランスを見る力や観察力などの向上がみられるのか確認する。 | | | | | |
| 3 | 造形① | | 1年次に比べ、犬体や骨格などの構造を理解することができるかを考えながら粘土で犬体を作成する。 | | | | | |
| 4 | 造形② | | 1年次に比べ、犬体や骨格などの構造を理解することができるかを考えながら粘土で犬体を作成する。 | | | | | |
| 5 | 服飾① | | 1年次より作業工程が多い犬の服を手縫いで作成。縫い方を復習をし、縫製の手順を学ぶ。 | | | | | |
| 6 | 服飾② | | 1年次より作業工程が多い犬の服を手縫いで作成。縫い方を復習をし、縫製の手順を学ぶ。 | | | | | |
| 7 | 服飾③ | | 裁断したそれぞれのパーツの布を縫い合わせ犬の洋服を完成させる。 | | | | | |
| 8 | 服飾④ | | 裁断したそれぞれのパーツの布を縫い合わせ犬の洋服を完成させる。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|--|--|------|------|----|---|
| 科目 | 犬体学 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 片桐麻里奈 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 今ではほぼ確立された犬種群だが、犬の起源にさかのぼり歴史や家畜化、現在の犬種に至るまでの過程を深く理解する。また、犬の構成が皮膚、被毛についての知識を深めることにより、日常のトリミングの授業に反映させ、より質の高い技術の習得をさせることを目的とする。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 全犬種標準書・グルーミングマニュアル | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 犬体・骨格名称 | | 各部位の名称を学び理解する。 | | | | | |
| 2 | 耳・尾・歯の名称 | | 犬種による耳の形や尾の形の違い、歯の咬み合せについて学び理解する。 | | | | | |
| 3 | 犬の起源、歴史、家畜化した犬① | | どの様にして現在の犬種が成り立ってきたか歴史を学ぶ。 | | | | | |
| 4 | 犬の起源、歴史、家畜化した犬② | | どの様にして現在の犬種が成り立ってきたか歴史を学ぶ。 | | | | | |
| 5 | 犬種別による被毛や皮膚の構造 | | 犬種による皮膚やコートの特徴に関する様々な理解を深める。 | | | | | |
| 6 | 犬の構成① | | 犬の身体の構造を絵に描いて、より詳しく理解を深める。犬の身体の基本を知ることで、全犬種標準書を理解できるようにする。 | | | | | |
| 7 | 犬の構成② | | 犬の身体の構造を絵に描いて、より詳しく理解を深める。犬の身体の基本を知ることで、全犬種標準書を理解できるようにする。 | | | | | |
| 8 | 純犬種の繁殖手順や計画出産、登録 | | 純血種を守る大切さ、発情の仕組みを理解する。 | | | | | |
| 9 | グループ分け | | 1～10グループのそれぞれの生存目的や形態・用途を理解する。 | | | | | |
| 10 | ドッグショーのルールを学ぶ | | ドッグショーのルールを学び、どのようにして順位が決定するのかを学ぶ。 | | | | | |
| 11 | 1・2グループ | | グループの構成、1・2グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 12 | 3グループ | | グループの構成、3グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 13 | 4・5グループ | | グループの構成、4・5グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 14 | 6・7グループ | | グループの構成、6・7グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 15 | 8グループ | | グループの構成、8グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |
| 16 | 9グループ | | グループの構成、9グループに属する犬種名、用途、歴史、形態、習性を理解する。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|--|--|------|------|----|---|
| 科目 | 行動学 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 小田健郎 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | イヌやネコの発生起源、種類による特徴を理解し基本的行動から適正飼育、しつけ方法などを理解し動物の看護と飼い主指導に活かす。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 配布資料 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 動物行動学の基礎 | | 動物行動学とは何か、動物行動学の基礎、歴史を学ぶ。 | | | | | |
| 2 | 犬の進化と家畜化① | | 犬と人とはいつ頃から付き合いがあるのか。また、家畜化によってどのように変化したのか。家畜化していく上で作出された犬種について学ぶ | | | | | |
| 3 | 猫の進化と家畜化① | | リビアヤマネコがどのようにしてイエネコになったのか。家畜化していく理由などについて学ぶ。 | | | | | |
| 4 | 犬の発達行動学① | | 犬の発達行動を継時的に学ぶ。とくになぜ社会化期が重要なのかを学ぶ。発達行動に影響を与える遺伝的な因子について学ぶ。 | | | | | |
| 5 | 犬の発達行動学② | | 発達行動に影響を与える環境の因子について学ぶ。犬の感覚について学ぶ。 | | | | | |
| 6 | 犬のコミュニケーション行動① | | 犬のコミュニケーション行動を理解する。 | | | | | |
| 7 | 犬のコミュニケーション行動② | | 犬の表情、ボディランゲージを理解する。 | | | | | |
| 8 | 猫の発達行動学① | | 猫の発達行動を継時的に学ぶ。 | | | | | |
| 9 | 猫の発達行動学② | | 猫の発達行動を摂食行動、捕食行動から学ぶ。 | | | | | |
| 10 | 犬の社会的行動① | | 他のイヌ科動物や野犬の社会行動から犬について考える。 | | | | | |
| 11 | 犬の社会的行動② | | 犬の視覚、嗅覚、発声、触覚によるコミュニケーションについて学ぶ。 | | | | | |
| 12 | 犬の社会的行動③ | | 犬の繁殖行動について学ぶ。 | | | | | |
| 13 | 犬の社会的行動④ | | 犬と人との関係について学ぶ。 | | | | | |
| 14 | 猫の社会的行動① | | 猫同士の社会的相互作用について学ぶ。 | | | | | |
| 15 | 猫の社会的行動② | | 単独で暮らすイエネコが集団でも暮らせる理由を学ぶ。 | | | | | |
| 16 | 猫の社会的行動③ | | 猫の視覚、発声によるコミュニケーションについて学ぶ。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|------------------------|--|------|------|---|---|
| 科目 | 行動学 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 16 | 授業回数 | 8 | |
| 担当教員 | 小 田 健 郎 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | イヌやネコの発生起源、種類による特徴を理解し基本的行動から適正飼育、しつけ方法などを理解し動物の看護と飼い主指導に活かす。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 配布資料 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 猫の社会的行動④ | | 猫の嗅覚によるコミュニケーションを学ぶ。 | | | | | |
| 2 | 猫の社会的行動⑤ | | 猫の繁殖行動について学ぶ。 | | | | | |
| 3 | 猫のコミュニケーション行動① | | 猫のコミュニケーション行動を理解する。 | | | | | |
| 4 | 猫のコミュニケーション行動② | | 猫の表情、ボディランゲージを理解する。 | | | | | |
| 5 | 行動の学習原理① | | 古典的条件付けについて学ぶ。 | | | | | |
| 6 | 行動の学習原理② | | オペラント条件付け、罰の副作用について学ぶ。 | | | | | |
| 7 | 行動の学習原理③ | | 問題行動の原因、治療について考える。 | | | | | |
| 8 | 行動の学習原理④ | | 問題行動を解決する方法を実践的に考える。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|--|--|------|------|---|---|
| 科目 | 構成・歩様学 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 16 | 授業回数 | 8 | |
| 担当教員 | 工藤 公康 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 四足歩行の動物である犬について、体躯構成や骨格について学び知識を深めることにより、質の高い技術の修得する。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 配布資料 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | 犬の構成① | | 犬の身体の構造を絵に描いて、より詳しく理解を深める。犬の身体の基本を知ることで、全犬種標準書を理解できるようにする。 | | | | | |
| 2 | 犬の構成② | | 犬の身体の構造を絵に描いて、より詳しく理解を深める。犬の身体の基本を知ることで、全犬種標準書を理解できるようにする。 | | | | | |
| 3 | 犬体と骨格 | | 犬体名称、骨格名称を学ぶ。 | | | | | |
| 4 | 犬の歩様 | | 四足歩行をする犬の歩く（走る）動作、リズム、サイクルと速度の関係性を理解する。 | | | | | |
| 5 | 歩行動作 | | 犬が歩行する際の重心の移り変わり、四肢の使い方を理解する。 | | | | | |
| 6 | 歯牙 | | 肉食性、草食性動物の歯牙の特徴、犬の歯列および構造を学ぶ。 | | | | | |
| 7 | 脊椎 | | 脊椎の詳しい構造及び動きを学ぶ。 | | | | | |
| 8 | 犬の頭部 | | 犬の美観の中心である頭部構成の理解を深め、犬種ごとの魅力を知る。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|------------------------------|--|------|------|---|---|
| 科目 | 繁殖学 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 16 | 授業回数 | 8 | |
| 担当教員 | 林 茂 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 雌雄の生殖器の構造を理解したうえで、犬と猫の雌の発情・妊娠・分娩などの繁殖についての過程を学び、生殖器疾患と新生子疾患の疾患名について学習する。また、看護のポイントについてもしっかりと理解することを目的とする。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 絵で見る解剖学 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | 生殖器の構造① | | 雌雄別、動物種別に生殖器の構造を理解する | | | | | |
| 2 | 生殖器の構造② | | 雌雄別、動物種別に生殖器の構造を理解する | | | | | |
| 3 | 生殖機能のホルモン支配① | | 生殖系ホルモンの主な生理作用を理解する。 | | | | | |
| 4 | 生殖機能のホルモン支配② | | 性成熟と生殖周期（ライフサイクル、季節周期）を理解する。 | | | | | |
| 5 | 繁殖生理① | | 雌犬、雌猫の繁殖生理について | | | | | |
| 6 | 繁殖生理② | | 雌犬、雌猫の繁殖生理について | | | | | |
| 7 | 妊娠・分娩① | | 交配、妊娠～分娩、新生子の管理までの流れを理解する | | | | | |
| 8 | 妊娠・分娩② | | 交配、妊娠～分娩、新生子の管理までの流れを理解する | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|----|---|
| 科目 | 飼育・飼養学概論 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 片桐麻里奈 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 愛玩動物の適切な飼養管理やそれに伴う法律について理解を深め、将来的に就職した際に飼い主様に正しい飼養方法を伝える事ができるようにする。その過程で、愛玩動物飼養管理士2級の資格取得を目標とする。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 愛玩動物飼養管理士教本 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 提出物 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 協会の設立の経緯から仕組み、目的また、愛玩飼養管理の資格の重要性について | | 現在の日本愛玩動物協会に至る流れがどのような仕組みで協会が成り立っているのかを知り、動物愛護に対して考えてみる。また、飼養管理士資格の重要性や求められているものを理解し、資格取得者の立場を把握する。 | | | | | |
| 2 | 動物愛護論（歴史）① | | 日本人の動物観と西洋人の動物観の違いや、動物愛護の考えがどのように変化していったかを2講義にわたり学習する。 | | | | | |
| 3 | 動物愛護論（歴史）② | | 日本人の動物観と西洋人の動物観の違いや、動物愛護の考えがどのように変化していったかを2講義にわたり学習する。 | | | | | |
| 4 | 狂犬病予防法・身体障害者補助犬法 | | 1.人畜共通感染症の中でも、人に感染すると致死率100%といわれる狂犬病についての知識や法律 2.補助犬の種類や役割、どのような過程で補助犬の資格を得ることができるのかを学習する。 | | | | | |
| 5 | ペットフード安全法・鳥獣の保護及び管理、並びに狩猟の適正化に関する法律 | | 1.対象動物の仕分けやこの法律にあたる食品種の理解や規格、基準の理解を深める。 2.野生動物種の対象、仕分けや輸出入、規正などの理解を深める。 | | | | | |
| 6 | 動物の健康増進と疾病予防 | | 動物飼養における疾病の予防と疾病にかかる要因や健康的に動物を飼養するために知らなければならない知識を学習する。 | | | | | |
| 7 | 飼養衛生・管理衛生 | | ペットフードの表示項目についてや飼養形態、飼養施設からみた管理衛生について | | | | | |
| 8 | ケガや事故への対応、災害に備える | | ペットがケガや事故にあった時の対応の仕方や、災害時の備えについて | | | | | |
| 9 | 災害に備える、血統書、犬の飼養管理 | | 災害の備えについて、血統書のについて、犬の分類と歴史について | | | | | |
| 10 | 犬の飼養管理① | | 犬の特徴、犬と暮らす上での環境作りについて | | | | | |
| 11 | 犬の飼養管理② | | 犬の発情、犬の健康管理について | | | | | |
| 12 | 猫の飼養管理① | | 猫の分類と歴史、猫の特徴について | | | | | |
| 13 | 猫の飼養管理② | | 猫と暮らす上での環境作りについて | | | | | |
| 14 | 猫の飼養管理③ | | 猫の発情、健康管理について | | | | | |
| 15 | ウサギとハムスターの飼養管理 | | 分類や歴史、形態的特徴を学び、適正な飼養方法について理解する。 | | | | | |
| 16 | フェレットとチンチラの飼養管理 | | 分類や歴史、形態的特徴を学び、適正な飼養方法について理解する。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|---|---|
| 科目 | 飼育・飼養学概論 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 16 | 授業回数 | 8 | |
| 担当教員 | 廣田典子 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 1年生で学んだことを理論的かつ科学的に理解を深め、専門的知識を高めるとともに、社会ニーズに対応できる実践的応用力を身につける。その過程で、愛玩動物飼養管理士1級の資格取得を目標とする。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 愛玩動物飼養管理士教本 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | 小動物の飼育法① | | ペットとショップでよく見る小動物の飼育・管理方法について学習する。 | | | | | |
| 2 | 小動物の飼育法② | | ペットとショップでよく見る小動物の飼育・管理方法について学習する。 | | | | | |
| 3 | 動物の疾病とその予防① | | 感染症の病原体と予防の基礎知識について学習する。 | | | | | |
| 4 | 動物の疾病とその予防② | | 犬・猫の疾病とその予防について学習する。 | | | | | |
| 5 | 動物の飼養と公衆衛生 | | 人と動物の共生に必要な公衆衛生の課題と人と動物の共通感染症とその対策について学習する。 | | | | | |
| 6 | 動物の遺伝 | | DNA、遺伝法則、遺伝に関連した疾患などを学習する。 | | | | | |
| 7 | 犬と猫の栄養学① | | 栄養素とその機能を学習する。 | | | | | |
| 8 | 犬と猫の栄養学② | | 犬猫のライフステージと栄養について学習する。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|----------|--|--|------|---|---|
| 科目 | 獣医・看護学 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 16 | 授業回数 | 8 | |
| 担当教員 | 古山馨・鎌田絵里 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | 犬や猫が健全で健康な生活を送れるよう、必要な日常のケアや適正飼育を学び、飼い主に分かりやすく伝えることができることを目的としている。動物の健康管理は獣医療だけでなくトリマーもその一端を担う存在として基礎的な疾病や公衆衛生、応急処置などを学び、また、動物の幸せな一生をサポートできるよう、ワクチン、定期健診などのウェルネスプログラムを理解し、飼い主に指導できるよう学ぶ。 | | | | | | | |
| 使用教材 | コンパニオンアニマルの健康管理学 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | 栄 | | 養① | | 1.栄養学の基礎的知識 | | | 2.食餌を与える際の注意 |
| 2 | 栄 | | 養② | | 3.自家製フードを市販フード | | | 4.肥満と食餌 5.特別療法食 |
| 3 | 寄 | | 生 虫 | | 1.外部寄生虫の予防と駆除 | | | 2.腸管内寄生虫の予防と駆除 |
| 4 | 応 | | 急処置 | | 1.動物の状態確認 | | | 2.外傷の応急処置 3.その他の応急処置 4.中毒 5.人工呼吸と心臓マッサージ |
| 5 | 感 | | 染症と予防 | | 1.感染症 2.滅菌法と消毒法 3.消毒薬 4.院内感染とペットショップ内感染 5.代表的な感染症とその予防 | | | |
| 6 | ズ | | ーノーシス | | 1.ズーノーシスを学ぶ意義 2.咬まれたりひっかかれたりして感染するズーノーシス 3.日常生活に関係の深いズーノーシス 4.食中毒を引き起こすズーノーシス 5.その他の代表的なズーノーシス ⑥ズーノーシスの一般的な予防法 | | | |
| 7 | 日 | | 常の健康管理① | | 1.散歩・運動 2.排尿・排便 3.全身の手入れ 4.口腔衛生 | | | |
| 8 | 日 | | 常の健康管理② | | 5.イヌの登録 6.ワクチンで予防できる病気 7.避妊 8.イヌ糸状虫症の予防 | | | |

| | | | | | | | |
|------|---|-------|--|--|------|------|----|
| 科目 | 健康管理学 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 |
| 担当教員 | 今 木 康 彦 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | |
| 学習目標 | <p>犬や猫が健全で健康な生活を送れるよう、必要な日常のケアや適正飼育を学び、飼い主に分かりやすく伝えることが出来ることを目的としている。動物の健康管理は獣医療だけでなくトリマーもその一端を担う存在として基礎的な疾病や公衆衛生、応急処置などを学び、また、動物の幸せな一生をサポートできるように、ワクチン、定期健診などのウェルネスプログラムを理解し、飼い主に指導できるように学ぶ。</p> | | | | | | |
| 使用教材 | コンパニオンアニマルの健康管理学 | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 提出物 | | | | | | |
| | テ ー マ | | 内 容 | | | | |
| 1 | 栄 養① | | 1.栄養学の基礎的知識 ①エネルギー②水③糖質④脂質⑤タンパク質 ⑥ビタミン⑦ミネラル | | | | |
| 2 | 栄 養② | | 2.食餌を与える際の注意 ①ライフサイクルに応じた食餌 ②栄養素のバランス ③食欲を増進させる要因 ④ネコの食事 | | | | |
| 3 | 栄 養③ | | 3.自家製フードと市販フード 4.肥満と食餌 5.特別療法食 | | | | |
| 4 | 寄生虫① | | 1.外部寄生虫の予防と駆除 ①ノミ ②マダニ ③イヌ毛包虫 ④ヒゼンダニ ⑤ミミヒゼンダニ ⑥ツメダニ ⑦ハジラミ | | | | |
| 5 | 寄生虫② | | 2.腸管内寄生虫の予防と駆除 ①回虫 ②鉤虫 ③イヌ鞭虫 ④イヌ条虫 ⑤ネコ条虫 ⑥マンソン裂頭条虫 ⑦コクシジウム ⑧腸トリコモサス ⑨ジアルジア | | | | |
| 6 | 応急処置① | | 1.動物の状態確認 2.外傷の応急処置 3.その他の応急処置 | | | | |
| 7 | 応急処置② | | 4.中毒 5.人工呼吸と心臓マッサージ | | | | |
| 8 | 感染症と予防① | | 1.感染症 2.滅菌法と消毒法 3.消毒薬 | | | | |
| 9 | 感染症と予防② | | 4.院内感染とペットショップ内感染 5.代表的な感染症とその予防 | | | | |
| 10 | ズーノーシス① | | 1.ズーノーシスを学ぶ意義 2.咬まれたりひっかかれたりして感染するズーノーシス | | | | |
| 11 | ズーノーシス② | | 3.日常生活に関係の深いズーノーシス 4.食中毒を引き起こすズーノーシス | | | | |
| 12 | ズーノーシス③ | | 5.その他の代表的なズーノーシス 6.ズーノーシスの一般的な予防法 | | | | |
| 13 | 日常の健康管理① | | 1.散歩・運動 2.排尿・排便 3.全身の手入れ | | | | |
| 14 | 日常の健康管理② | | 4.口腔衛生 5.イヌの登録 | | | | |
| 15 | 日常の健康管理③ | | 6.ワクチンで予防できる病気 | | | | |
| 16 | 日常の健康管理④ | | 7.避妊 8.イヌ糸状虫症の予防 | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|--|--|------|------|---|---|
| 科目 | 看護実践学 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 16 | 授業回数 | 8 | |
| 担当教員 | 立花 徹 | | | 実務経験 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 演習 | | |
| 学習目標 | 本教科は、愛犬美容看護専門学校公認動物看護師ライセンス取得が目標である。最低限必要な技術と知識を実習形式で学び、動物病院で働けるトリマーを目指す。 | | | | | | | |
| 使用教材 | | | | | | | | |
| 評価基準 | 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | 滅菌製品の取り扱い調剤法・輸液法① | | シリンジや注射針の取り扱い方法を学ぶ。薬剤の種類・投与量を求める計算方法・分包の仕方について学ぶ。輸液バッグと輸液セットの種類について学ぶ。 | | | | | |
| 2 | 滅菌製品の取り扱い調剤法・輸液法② | | 分包機を使って薬の分包及び手分包の実習。輸液ポンプのセッティング実習。例題の投与量を求める。 | | | | | |
| 3 | 試験対策 | | 滅菌製品の取り扱い。調剤法・輸液法について復習。 | | | | | |
| 4 | 糞便検査・尿検査① | | 顕微鏡検査のためのスライド作成。その他検査の手段。顕微鏡の使い方。 | | | | | |
| 5 | 糞便検査・尿検査② | | 顕微鏡検査のためのスライド作成。その他検査の手段。顕微鏡の使い方。 | | | | | |
| 6 | 試験対策 | | 糞便検査と尿検査の復習。 | | | | | |
| 7 | 血液検査・投薬① | | 血液の働き、細胞成分と液体成分、血液検体や検査器具の取り扱い、また検査項目を学ぶ。実習を行うことで、血液検査で何が分かるか、検査に必要な器具、採血時の保定の仕方や採血に使われる血管名などを覚える。 | | | | | |
| 8 | 血液検査・投薬② | | 錠剤、散剤、点眼薬の投与方法。保定の仕方、注意点などを学ぶ。血液検査・投薬 おさらい。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|----|---|
| 科目 | 社会学 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 小林文香 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 実技 | | |
| 学習目標 | トリマーとしてのコミュニケーションスキルは非常に重要。飼い主の意向を聞き業務に反映させること、またさらにコミュニケーションをとることによって新たな発見や問題点も出てくる。この授業ではコミュニケーション学の基礎を中心に挨拶、返事の仕方、声の出し方、言葉遣い、身だしなみを学びます。また、仕事の進め方として重要とされている「ほうれんそう」「5W2H」についても学習。ペットショップを想定したロールプレイ式、実習を展開。飼い主の気持ちを理解し、信頼される社会人を目標 | | | | | | | |
| 使用教材 | 配布資料 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 接遇とは | | 信頼される社会人になるため接遇の基礎知識を学ぶ。 | | | | | |
| 2 | 身だしなみの必要性 | | 信頼される社会人になるため接遇の基礎知識を学び、身だしなみの重要性を知り取り組む姿勢を学ぶ。 | | | | | |
| 3 | 正しい敬語の使い方① | | 信頼させる社会人になるため接遇の基礎知識を学び、言葉遣いを確認。シチュエーションに合った接遇を学ぶ。 | | | | | |
| 4 | 正しい敬語の使い方② | | 信頼される社会人になるため接遇の基礎知識を学び言葉遣いを再確認。コミュニケーションの取り方を学ぶ。 | | | | | |
| 5 | 業界の特性・ルール | | 信頼される社会人になるため接遇の基礎知識を学び、社会のルール、業界での動向、店内でのコミュニケーションの必要性を学ぶ。 | | | | | |
| 6 | 電話対応（基礎） | | 信頼される社会人になるため接遇の基礎知識を学び、ビジネス電話の対応、電話でのコミュニケーションの特性、正確・簡潔・丁寧を学ぶ。 | | | | | |
| 7 | 接客マナー① | | 立ち方や笑顔の作り方、発声の仕方について | | | | | |
| 8 | 接客マナー② | | お辞儀の仕方（角度）や歩き方について | | | | | |
| 9 | 接客マナー③ | | 言葉遣い、電話の受け方や掛け方について | | | | | |
| 10 | ペットショップの仕事について① | | 出勤時のマナーやペットショップにはどのような仕事があるのか、また、トリマーやペットショップで働く人はどういう人であるべきなのかを学ぶ。 | | | | | |
| 11 | ペットショップの仕事について② 研修について | | 1.掃除の基本や大切さを学ぶ。 2.研修については、どのような心構えで研修に臨めばよいかを学習する。 | | | | | |
| 12 | 電話対応① | | 電話の特性を学び、顔の見えない接客で気を付けなければいけないことを学習。言葉遣いや電話の受け方を学ぶ。 | | | | | |
| 13 | 電話対応② | | 電話の受け方や掛け方の基本を学び、復唱やメモの重要性を学習する。 | | | | | |
| 14 | 犬の正しい扱い方 指示の受け方と作業の基本 | | 1.小型犬や大型犬、子犬を扱う上での注意点や仕事をする上で大切な「ハウレンソウ」について 2.ポイントをふまえた報告・連絡・相談の仕方 | | | | | |
| 15 | 空いた時間に する仕事 店の内外での振る舞い方 | | 1.空き時間を有効に活用した仕事とは何か 2.常にショップの一員としての自覚をもった行動について | | | | | |
| 16 | コミュニケーション実践 | | ビジネス社会で求められる「コミュニケーション能力」について考察し、言語で物事を伝える難しさを実践で学習する。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|---|--|------|------|----|---|
| 科目 | 社会学 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 24 | 授業回数 | 12 | |
| 担当教員 | 小林文香 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 実技 | | |
| 学習目標 | トリマーは動物だけをターゲットにする仕事ではない。高度な技術や知識を持っていても動物に対しての愛情が深くても、飼い主に了解と承諾がないと勝手に動物たちに何かをすることは出来ない。トリマーは飼い主に選ばれたプロであり満足いただけるサービスを提供しなければならない。また、ペット業界はどの職種を取り上げても一人で完結する仕事はない。店長や上司先輩同僚のサポートがあり始めて一つの仕事を成し遂げる。仕事を円滑に気持ちよく進めるためにも職場の仲間のマナー配慮が必要となるのでその能力を養う。接遇の授業では飼い主の気持ちを理解し、信頼される社会人を目標に学ぶ。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 配布資料 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 身だしなみの重要性 | | 信頼される社会人になるため、身だしなみの重要性を学ぶ。アクティブラーニングを用い各グループで話し合い、お互い評価し合う。 | | | | | |
| 2 | 敬語の重要性① | | 信頼される社会人になるため、敬語の使い方、重要性を確認。各グループで話し合い、アクティブラーニングで実習。 | | | | | |
| 3 | 敬語の重要性② | | 信頼される社会人になるため、敬語の使い方、重要性を確認。各グループで話し合い、アクティブラーニングで実習。 | | | | | |
| 4 | 店内での対応 | | 信頼される社会人になるため、各グループで話し合い、店内のシチュエーションで飼い主対応を実施。アクティブラーニングを用いる。 | | | | | |
| 5 | 電話での対応(応用) | | 信頼される社会人になるため、各グループで話し合い、電話での飼い主対応を実施。アクティブラーニングを用いる。 | | | | | |
| 6 | クレーム処理 | | 信頼される社会人になるため、各グループで話し合い、飼い主からのクレーム対応を実施。アクティブラーニングを用いる。 | | | | | |
| 7 | クレームについて① | | クレームの捉え方や発生する原因について | | | | | |
| 8 | クレームについて② | | クレーム対応の基本について | | | | | |
| 9 | ペットショップでの販売について① | | ペットショップでは物販のほかに生体販売がある。生体を販売する上で注意しなければいけないこと、販売のノウハウ、いかに慎重にならなければいけないか、責任のある仕事なのかということを学ぶ。 | | | | | |
| 10 | ペットショップでの販売について② | | ペットショップでは物販のほかに生体販売がある。生体を販売する上で注意しなければいけないこと、販売のノウハウ、いかに慎重にならなければいけないか、責任のある仕事なのかということを学ぶ。 | | | | | |
| 11 | ペットショップでの販売について③ | | ペットショップでは物販のほかに生体販売がある。生体を販売する上で注意しなければいけないこと、販売のノウハウ、いかに慎重にならなければいけないか、責任のある仕事なのかということを学ぶ。 | | | | | |
| 12 | 炭酸泉とプロアについて | | 1.炭酸泉の効用の理解 2.プロアの効率的利用法 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|--|--|------|------|----|---|
| 科目 | ハンドリング学科 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 工藤 公康 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 講義 | | |
| 学習目標 | ショーハンドリングを学び、犬の静と動、それぞれの美しさを感じる見識を養う。また、理想的な犬の取り扱い方を身につけ、人と犬とのよい関係作りができるよう目指す。 | | | | | | | |
| 使用教材 | ハンドリングマニュアル | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | 知っておくべき基礎知識① | | ハンドリングとドッグショーの歴史を学ぶ。 | | | | | |
| 2 | 知っておくべき基礎知識② | | イギリスのドッグショーを考察する。審査のポイントを理解する。 | | | | | |
| 3 | 知っておくべき基礎知識③ | | アメリカのドッグショーを考察する。審査のポイントを理解する。 | | | | | |
| 4 | 知っておくべき基礎知識④ | | 日本のドッグショーを考察する。審査のポイントを理解する。 | | | | | |
| 5 | ハンドリングの基本① | | 犬の正しい立姿を覚え、ハンドリング試験の審査基準を理解する。 | | | | | |
| 6 | ハンドリングの基本② | | スタックの手順と触り方、リードの取り扱いや犬とハンドラーの距離感を知る。 | | | | | |
| 7 | リードの扱い犬の扱い① | | リードの持ち方と確実に犬のアゴ下にリードをかける手技を学ぶ。リードのかけ方、持ち方で犬の反応が変わることを理解する。 | | | | | |
| 8 | リードの扱い犬の扱い② | | リードの持ち方と確実に犬のアゴ下にリードをかける手技を学ぶ。リードのかけ方、持ち方で犬の反応が変わることを理解する。 | | | | | |
| 9 | 人と犬の歩行① | | 人が犬の歩行を先導する方法を学び、より良い歩様を考察する。 | | | | | |
| 10 | 人と犬の歩行② | | 人が犬の歩行を先導する方法を学び、より良い歩様を考察する。 | | | | | |
| 11 | 人と犬の歩行③ | | 犬の歩行、静止を学ぶ。人が先導し犬を歩行させ、人が止めたいと思う所で静止させる方法を理解する。 | | | | | |
| 12 | 人と犬の歩行④ | | 犬の歩行、静止を学ぶ。人が先導し犬を歩行させ、人が止めたいと思う所で静止させる方法を理解する。 | | | | | |
| 13 | 人と犬の歩行⑤ | | リンク全体の位置関係を把握する。会場の大さや、地面の状況を見極める判断力を養う。 | | | | | |
| 14 | 人と犬の歩行⑥ | | 人と犬の歩様を理解する。他者のハンドリングにも注目し、客観的な見え方を考察。自分のハンドリングを深究する。 | | | | | |
| 15 | 人と犬の歩行⑦ | | 人と犬の歩様を理解する。他者のハンドリングにも注目し、客観的な見え方を考察。自分のハンドリングを深究する。 | | | | | |
| 16 | 人と犬の歩行⑧ | | ハンドリング審査一連の流れを知る。試験時の審査手順、全犬歩行整列、触審、個体歩行の一連の動きを理解する。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|----|---|
| 科目 | ハンドリング実習 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 工藤 公康 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 演習 | | |
| 学習目標 | その犬の持つ最も正しい立ち姿勢を理解し、スタックさせる技術を修得する。また、その犬の持つ最も良い歩様を理解し、正しく歩かせる技術を修得する。 | | | | | | | |
| 使用教材 | ハンドリングマニュアル | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | ショーハンドリングの実践練習① | | 犬と一緒に歩く。犬の気持ちを考える。実践前の基礎を身につける。 | | | | | |
| 2 | ショーハンドリングの実践練習② | | 犬と一緒に歩く。犬の気持ちを考える。実践前の基礎を身につける。 | | | | | |
| 3 | ショーハンドリングの実践練習③ | | 犬と一緒に歩く。犬の気持ちを考える。実践前の基礎を身につける。 | | | | | |
| 4 | ショーハンドリングの実践練習④ | | ハンドラーとしての立ち振る舞いを学ぶ。美しい姿勢、歩行動作を身につける。 | | | | | |
| 5 | ショーハンドリングの実践練習⑤ | | ハンドラーとしての立ち振る舞いを学ぶ。美しい姿勢、歩行動作を身につける。 | | | | | |
| 6 | ショーハンドリングの実践練習⑥ | | ハンドラーとしての立ち振る舞いを学ぶ。美しい姿勢、歩行動作を身につける。 | | | | | |
| 7 | ショーハンドリングの実践練習⑦ | | ドッグショー及びハンドリング試験の全体の流れを理解し、動き方を覚える。 | | | | | |
| 8 | ショーハンドリングの実践練習⑧ | | ドッグショー及びハンドリング試験の全体の流れを理解し、動き方を覚える。 | | | | | |
| 9 | ショーハンドリングの実践練習⑨ | | 触審テーブル上での犬の立たせ方、重心のコントロールを覚え、審査員との対応を学ぶ。 | | | | | |
| 10 | ショーハンドリングの実践練習⑩ | | 触審テーブル上での犬の立たせ方、重心のコントロールを覚え、審査員との対応を学ぶ。 | | | | | |
| 11 | ショーハンドリングの実践練習⑪ | | 一連のショーハンドリングの中でも、審査員に対応し、動き方を自主的に判断する方法を学ぶ。 | | | | | |
| 12 | ショーハンドリングの実践練習⑫ | | 一連のショーハンドリングの中でも、審査員に対応し、動き方を自主的に判断する方法を学ぶ。 | | | | | |
| 13 | ショーハンドリングの実践練習⑬ | | 一連のショーハンドリングの中でも、審査員に対応し、動き方を自主的に判断する方法を学ぶ。 | | | | | |
| 14 | ショーハンドリングの実践練習⑭ | | モデル犬の長所を理解し、その長所を審査員にアピールする方法を学ぶ。 | | | | | |
| 15 | ショーハンドリングの実践練習⑮ | | モデル犬の長所を理解し、その長所を審査員にアピールする方法を学ぶ。 | | | | | |
| 16 | ショーハンドリングの実践練習⑯ | | モデル犬の長所を理解し、その長所を審査員にアピールする方法を学ぶ。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|---|--|------|------|----|---|
| 科目 | ハンドリング実習 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 32 | 授業回数 | 16 | |
| 担当教員 | 工藤 公康 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 演習 | | |
| 学習目標 | その犬の持つ最も正しい立ち姿勢を再度確認し、その犬の持つ最も良い歩様を理解し、正しく歩かせる技術を修得する。J K C公認ハンドラーライセンスC級取得を目標とする。 | | | | | | | |
| 使用教材 | ハンドリングマニュアル | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 授業態度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | ショーハンドリングの実践練習① | | 初心に戻り、犬と一緒に歩き、犬の気持ちを考える。実践前の基礎を再度確認する。 | | | | | |
| 2 | ショーハンドリングの実践練習② | | ハンドラーをしての立ち振る舞いを再度確認する。 | | | | | |
| 3 | ショーハンドリングの実践練習③ | | 歩行速度、リードの使い方により犬の歩様が変わることを学ぶ。また、適切なリードワークを理解する。 | | | | | |
| 4 | ショーハンドリングの実践練習④ | | 歩行速度、リードの使い方により犬の歩様が変わることを学ぶ。また、適切なリードワークを理解する。 | | | | | |
| 5 | ショーハンドリングの実践練習⑤ | | 歩行速度、リードの使い方により犬の歩様が変わることを学ぶ。また、適切なリードワークを理解する。 | | | | | |
| 6 | ショーハンドリングの実践練習⑥ | | ハンドリング競技会形式で実習。各自のハンドリング技術を評価し、改善点を明確にする。 | | | | | |
| 7 | ショーハンドリングの実践練習⑦ | | ハンドリング競技会形式で実習。各自のハンドリング技術を評価し、改善点を明確にする。 | | | | | |
| 8 | ショーハンドリングの実践練習⑧ | | 各自の改善点を中心に克服する方法を考察、練習する。 | | | | | |
| 9 | ショーハンドリングの実践練習⑨ | | 各自の改善点を中心に克服する方法を考察、練習する。 | | | | | |
| 10 | ショーハンドリングの実践練習⑩ | | 各自の改善点を中心に克服する方法を考察、練習する。 | | | | | |
| 11 | ショーハンドリングの実践練習⑪ | | J K C公認ハンドラーC級ライセンス資格の合格基準に到達するように練習を重ねる。 | | | | | |
| 12 | ショーハンドリングの実践練習⑫ | | J K C公認ハンドラーC級ライセンス資格の合格基準に到達するように練習を重ねる。 | | | | | |
| 13 | ショーハンドリングの実践練習⑬ | | J K C公認ハンドラーC級ライセンス資格の合格基準に到達するように練習を重ねる。 | | | | | |
| 14 | ショーハンドリングの実践練習⑭ | | ハンドリング試験の全体の流れを再度確認する。 | | | | | |
| 15 | ショーハンドリングの実践練習⑮ | | 各自のハンドリング技術を発揮させ、犬とハンドラーが一体となるショーハンドリングを修得する。 | | | | | |
| 16 | ショーハンドリングの実践練習⑯ | | 各自のハンドリング技術を発揮させ、犬とハンドラーが一体となるショーハンドリングを修得する。 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|--|-------|--|--|------|------|-----|---|
| 科目 | トリミング実習 | 学科/学年 | トリマー科 1年 | 時間数 | 632 | 授業回数 | 316 | |
| 担当教員 | 北川道子 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 実技 | | |
| 学習目標 | トリミングをする上で重要となる犬の保定・犬の扱い方、道具の使い方などの基礎を習得する。犬種によりカット方法が異なり、各犬種のハサミの使い方や形を理解する。JKC公認トリマーC級ライセンス合格を目指す。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 実習犬・グルーミングマニュアル・道具一式 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 技能習得度 | | | | | | | |
| | テ | マ | 内 | | | | | 容 |
| 1 | グルーミング実習① | | 1.保定の基礎を学ぶ 2.道具の持ち方、使い方の基礎を学ぶ 3.シャンプー・ブローの基礎を学ぶ | | | | | |
| 2 | グルーミング実習② | | 1.クリッパーの入れ方、使い方の基礎を学ぶ 2.足回り、フットラインの切り方を学ぶ | | | | | |
| 3 | グルーミング実習③ | | 1.ボディのカットの仕方を学ぶ 2.クラウンのカットの仕方を学ぶ | | | | | |
| 4 | グルーミング実習④ | | 1.ボディのカットの仕方を学ぶ 2.クラウンのカットの仕方を学ぶ | | | | | |
| 5 | グルーミング実習⑤ | | 1.顔のカットの仕方を学ぶ | | | | | |
| 6 | グルーミング実習⑥ | | 1.全身カットができ、JKC公認トリマーC級ライセンス合格を目指す | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------|---|-------|------------------------------|--|--|------|-----|---|
| 科目 | トリミング実習 | 学科/学年 | トリマー科 2年 | 時間数 | 692 | 授業回数 | 346 | |
| 担当教員 | 古 山 馨 | | | 実務経験 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 | 授業形態 | 実技 | | |
| 学習目標 | J K C公認トリマーB級ライセンス取得を目標にペットショップの第一線で活躍できるよう、実習を通して様々な犬種のカットを時間内にでき、飼い主の要望に応えられる高い技術力を身につける。 | | | | | | | |
| 使用教材 | 実習犬・グルーミングマニュアル・道具一式 | | | | | | | |
| 評価基準 | 学期末試験 技能習得度 | | | | | | | |
| | テ | | マ | | 内 | | | 容 |
| 1 | グルーミング実習① | | (シザーリング、ブラッシング、コーミング、シャンピング) | | 1年次で修得したグルーミングの基礎とシザーが正しく持てるかを再確認する。 | | | |
| 2 | グルーミング実習② | | (クリッピング、カット) | | 試験を想定した時間短縮を心掛け、毛質の違いにあったシザーワークをし、全ての作業を安全に進める。 | | | |
| 3 | グルーミング実習③ | | (カット) | | 犬種別のカットを理解し、仕上げの美しさ、可愛らしさを追求したトリミングができる。 | | | |
| 4 | グルーミング実習④ | | (カット) | | 犬種別のカットの理解を深め、飼い主のオーダーを意識し、細部までこだわりをもちカットする。 | | | |
| 5 | グルーミング実習⑤ | | (カット応用) | | 犬種はもちろん、その個体にあったカットがバランスよく切れ、時間内に一人で完成させることができる。 | | | |
| 6 | グルーミング実習⑥ | | (カット応用) | | トリマーB級実技試験に向けて、プードルのケネル&ラムクリップを再確認し、完成度を上げる。 | | | |